



# 平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年1月30日

上場会社名 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社  
 コード番号 8242 URL <http://www.h2o-retailing.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 鈴木 篤

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 森 忠嗣

TEL 06-6365-8120

四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	689,206	1.3	17,975	4.9	19,645	18.1	15,194	5.2
29年3月期第3四半期	680,598	1.4	17,135	7.1	16,634	11.2	14,446	3.3

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 29,678百万円 (68.5%) 29年3月期第3四半期 17,615百万円 (42.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	123.06	122.39
29年3月期第3四半期	117.05	116.47

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	685,332	288,927	42.0
29年3月期	640,543	264,323	41.1

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 287,841百万円 29年3月期 263,220百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		20.00		20.00	40.00
30年3月期		20.00			
30年3月期(予想)				20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	915,000	1.5	22,700	0.7	23,100	6.3	14,500	1.4	117.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規1社(社名) 水水(中国)投資有限公司、除外 - 社(社名) -
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 有  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(注)第1四半期連結会計期間より、持分法適用関連会社において、ポイントに係る会計処理を変更しております。詳細は、添付資料P.9「2.(3)会計方針の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	125,201,396 株	29年3月期	125,201,396 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	1,727,673 株	29年3月期	1,737,627 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	123,469,038 株	29年3月期3Q	123,419,424 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.4「1.(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書 .....	7
四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	9
(会計方針の変更) .....	9
(セグメント情報) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日～平成29年12月31日)における当グループの連結業績は、不採算店舗の閉鎖やイズミヤの基幹店舗の建て替え工事の影響があったものの、円安・株高の影響による消費意欲の向上に伴う堅調な国内消費に加え、外国人観光客の購買が回復基調に転じた百貨店事業がグループ全体を牽引した結果、増収増益となりました。経常利益は為替差益の計上や受取配当金の増加などにより増益、親会社株主に帰属する四半期純利益についても増益となりました。

《連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	689,206	101.3
営業利益	17,975	104.9
経常利益	19,645	118.1
親会社株主に帰属する四半期純利益	15,194	105.2

各セグメントの概況は次のとおりです。

尚、当グループでは、当第3四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「百貨店事業」、「食品事業」、「不動産事業」及び「その他事業」の4区分から、「神戸・高槻事業」を追加した5区分に変更しております。この変更は、株式会社そごう・西武のそごう神戸店及び西武高槻店に関する事業を当グループが譲り受けたことによるものであります。

#### ①百貨店事業

阪急うめだ本店では、ファッション感度の高いお客様に向けて発信し続けている婦人ファッションフロアに対する認知度が高まるとともに広域から多くのお客様が来店され、継続的な売上の向上につながっております。インバウンド需要については、従来から好調な化粧品等の消耗品に加え、ジュエリー、時計等高額品の売上も復調し大きな嵩上げとなりました。国内需要についても平成28年春に改装を行った婦人服を中心に来店客数が増加、またラグジュアリーブランド等高額商材の動きも活発となるなど、好調に推移しました。このような結果、阪急メンズ大阪を含めた阪急本店の売上高は178,255百万円、前年同期比109.2%となりました。

阪神梅田本店では、平成30年春のI期棟オープンに向け、順調に建て替え工事が進んでおります。工事の影響により客数は伸び悩みましたが、主力の食料品の売上が前年を上回ったほか、阪神ならではの人気催事が好評で集客に寄与した結果、売上高は41,516百万円、前年同期比99.7%となりました。

支店においては、堺 北花田阪急が平成29年7月に閉店いたしました。開業以来最大規模の改装が平成29年11月に完了した博多阪急、ライフスタイル提案型の売場を強化した西宮阪急が好調に推移するなど、支店合計の売上高は前年並みで推移いたしました。

以上のような結果、百貨店事業全体で売上高、営業利益ともに前年実績を上回りました。

《百貨店事業の業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	332,051	104.6
営業利益	13,865	118.2

②神戸・高槻事業

平成29年8月に株式会社セブン&アイ・ホールディングスと締結いたしました、そごう神戸店及び西武高槻店に関する事業の譲受に関する最終契約書に基づき、同年10月1日にそごう神戸店及び西武高槻店の事業を譲受いたしました。当面は、屋号やサービス等は従来通り運営いたします。

《神戸・高槻事業の業績（平成29年10月1日～平成29年12月31日）》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	12,682	-
営業利益	508	-

③食品事業

イズミヤ株式会社では、GMS店舗の見直しを中心とした店舗再編計画を進めております。当期は建て替え工事を6店舗で実施するとともに食事業強化を軸とした改装を既存店4店舗で行いました。また株式会社阪急オアシスでは、当期も3店舗を出店し、ドミナントエリア内での店舗拡充を図りました。

しかし食品・日用品においては、節約志向の強まりによる価格競争の激化や不安定な農産・水産相場の影響など厳しい商環境が続きました。売上高については、イズミヤの店舗閉鎖に伴う営業店舗数の減少による影響が大きく、減収となりました。また、営業利益についても、社会保険料適用拡大に伴う人件費の増加、平成28年7月1日にイズミヤ株式会社を不動産の管理・開発を行う株式会社エイチ・ツー・オー アセットマネジメントと小売事業を担うイズミヤ株式会社（新設）に分社化した影響などにより減益となりました。

《食品事業の業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	296,428	93.9
営業利益	814	20.2

④不動産事業

株式会社カンソーでは、グループ外企業との取引拡大に積極的に取り組み、売上高は前年同期実績を上回りました。また、ビルメンテナンスを行う株式会社阪急メンテナンスサービスがコスト削減による経営効率の改善に組み、増益となりました。

《不動産事業の業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	7,989	110.4
営業利益	3,887	110.9

⑤その他事業

株式会社大井開発では、運営するビジネスホテル「アワーズイン阪急」が引き続き高い客室稼働率を維持しました。また、株式会社ペルソナでは、平成29年4月に導入した電子マネー「litta」の利用者数が順調に増加しております。

専門小売店業態におきましては、株式会社家族亭が新規メニューの開発・導入を積極的に行いました。また、株式会社エフ・ジー・ジェイや、株式会社阪急B&Cプランニングも新規出店などにより事業規模の拡大を進めました。このような取り組みの結果、その他事業全体の業績は以下の通りとなりました。

《その他事業の業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	40,055	99.4
営業利益	3,439	131.4

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は685,332百万円となり、前連結会計年度末に比べ44,788百万円増加しました。これは、建物などの有形固定資産が神戸・高槻事業の承継や阪神梅田本店建て替え工事の進行などにより22,540百万円、投資有価証券が含み益の増加などにより23,056百万円増加したことなどによるものです。

負債合計は396,405百万円となり、前連結会計年度末から20,185百万円増加しました。これは、主に季節要因により支払手形及び買掛金が20,746百万円増加したことによるものです。

また、純資産は288,927百万円と前連結会計年度末から24,603百万円増加しました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益15,194百万円の計上と配当金の支払4,938百万円などにより利益剰余金が10,124百万円、投資有価証券の含み益の増加によりその他有価証券評価差額金が14,717百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は42.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期の連結業績はほぼ想定通り推移しており、通期の業績予想については、平成29年10月31日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	83,481	58,153
受取手形及び売掛金	43,588	62,705
商品及び製品	33,531	36,447
仕掛品	174	1,512
原材料及び貯蔵品	1,587	1,498
繰延税金資産	4,146	4,809
未収入金	5,063	4,727
その他	7,172	6,199
貸倒引当金	△428	△422
流動資産合計	178,318	175,632
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	108,262	110,983
機械装置及び運搬具（純額）	3,745	3,874
土地	134,591	150,000
建設仮勘定	2,012	6,323
その他（純額）	10,348	10,320
有形固定資産合計	258,961	281,501
無形固定資産		
のれん	5,217	4,789
その他	12,326	12,649
無形固定資産合計	17,543	17,439
投資その他の資産		
投資有価証券	103,031	126,087
長期貸付金	3,868	4,180
差入保証金	69,060	70,522
退職給付に係る資産	683	2,393
繰延税金資産	9,960	8,426
その他	2,067	2,124
貸倒引当金	△2,952	△2,976
投資その他の資産合計	185,720	210,758
固定資産合計	462,225	509,699
資産合計	640,543	685,332

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	59,394	80,140
1年内償還予定の社債	6,600	2,000
コマーシャル・ペーパー	2,000	-
1年内返済予定の長期借入金	29,585	34,569
未払金	14,329	15,714
リース債務	675	768
未払法人税等	4,744	3,576
繰延税金負債	4	0
商品券	23,846	27,909
賞与引当金	4,885	2,496
役員賞与引当金	177	114
店舗等閉鎖損失引当金	441	89
ポイント引当金	1,750	2,336
資産除去債務	1,089	375
その他	39,676	40,128
流動負債合計	189,202	210,220
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	108,593	97,107
繰延税金負債	21,521	30,061
再評価に係る繰延税金負債	265	266
役員退職慰労引当金	245	217
商品券等回収引当金	3,558	3,687
退職給付に係る負債	18,209	17,732
長期末払金	526	751
リース債務	7,706	9,372
長期預り保証金	11,494	10,283
資産除去債務	2,567	2,709
その他	2,328	3,993
固定負債合計	187,017	186,184
負債合計	376,219	396,405
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	92,732	92,727
利益剰余金	125,490	135,615
自己株式	△3,234	△3,216
株主資本合計	232,786	242,923
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,227	45,945
繰延ヘッジ損益	21	40
土地再評価差額金	125	124
為替換算調整勘定	△309	△191
退職給付に係る調整累計額	△629	△999
その他の包括利益累計額合計	30,434	44,918
新株予約権	1,098	1,081
非支配株主持分	3	3
純資産合計	264,323	288,927
負債純資産合計	640,543	685,332



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	680,598	689,206
売上原価	481,626	490,028
売上総利益	198,971	199,178
販売費及び一般管理費	181,836	181,202
営業利益	17,135	17,975
営業外収益		
受取利息	62	166
受取配当金	943	1,218
諸債務整理益	961	1,014
為替差益	-	508
その他	541	977
営業外収益合計	2,508	3,886
営業外費用		
支払利息	814	781
商品券等回収引当金繰入額	766	744
為替予約評価損	256	-
その他	1,171	690
営業外費用合計	3,009	2,216
経常利益	16,634	19,645
特別利益		
負ののれん発生益	-	2,010
固定資産売却益	4,291	1,695
退職給付制度改定益	-	1,445
店舗等閉鎖損失引当金戻入額	252	-
特別利益合計	4,544	5,151
特別損失		
店舗等閉鎖損失	1,990	939
固定資産除却損	785	917
減損損失	1,186	420
特別損失合計	3,962	2,277
税金等調整前四半期純利益	17,215	22,519
法人税、住民税及び事業税	4,176	5,281
法人税等調整額	△1,406	2,043
法人税等合計	2,769	7,325
四半期純利益	14,446	15,194
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,446	15,194

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	14,446	15,194
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,477	14,717
繰延ヘッジ損益	34	19
土地再評価差額金	-	△1
為替換算調整勘定	105	△1
退職給付に係る調整額	271	△369
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,719	119
その他の包括利益合計	3,169	14,483
四半期包括利益	17,615	29,678
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,615	29,678
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

(連結の範囲の重要な変更)

平成29年12月18日に水水(中国)投資有限公司を設立し、当第3四半期連結会計期間より、同社を連結の範囲に含めております。なお、同社は当社の特定子会社に該当しております。

また、特定子会社の異動には該当していませんが、当第3四半期連結会計期間において、株式取得に伴い、株式会社神高管理を連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

一部の持分法適用関連会社においては、顧客への付与ポイントに係る収入及び引当等の会計処理について、従来、売上高と販売費及び一般管理費に計上していましたが、当連結会計年度より、預り金による処理に変更いたしました。

これは、当社グループが提供するポイントサービスについて、阪急阪神ホールディングスグループとの共通ポイント「Sポイント」サービスへの制度変更が行われたことに伴い、ポイントの付与及び精算等のプロセスについて見直した結果、実態をより適切に反映するために行ったものであります。

当連結会計年度の期首の純資産に、前連結会計年度の期末における未使用ポイント残高と、ポイント引当金の差額を基に算定した累積的影響額を反映しております。なお、当該会計方針の変更による前連結会計年度の損益への影響額及び前連結会計年度の期首の純資産に反映されるべき累積的影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

この結果、当連結会計年度の期首の利益剰余金が130百万円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益、1株当たり情報に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	百貨店 事業	食品 事業	不動産 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
外部顧客への売上高	317,342	315,714	7,235	40,305	680,598	—	680,598
セグメント間の内部 売上高又は振替高	391	4,280	12,381	19,188	36,241	△36,241	—
計	317,733	319,995	19,617	59,494	716,840	△36,241	680,598
セグメント利益	11,727	4,027	3,504	2,617	21,877	△4,741	17,135

(注) 1. セグメント利益の調整額△4,741百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「百貨店事業」セグメントにおいては、株式会社阪急阪神百貨店・堺 北花田阪急の営業終了決定に伴い、当第3四半期連結累計期間に原状回復費用相当額として780百万円の減損損失を計上しております。なお、四半期連結損益計算書においては、特別損失の店舗等閉鎖損失に含めて表示しております。また、阪神梅田本店について、建て替え工事期間中のキャッシュ・フローによる固定資産簿価の回収可能性を判断した結果、1,089百万円の減損損失を計上しております。

「食品事業」セグメントにおいては、イズミヤ株式会社他について、店舗の閉鎖等に伴い、当第3四半期連結累計期間に990百万円の減損損失を計上しております。なお、店舗閉鎖に係る損失966百万円について、四半期連結損益計算書においては、特別損失の店舗等閉鎖損失に含めて表示しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	神戸・高槻 事業	食品 事業	不動産 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高								
外部顧客への売上高	332,051	12,682	296,428	7,989	40,055	689,206	—	689,206
セグメント間の内部 売上高又は振替高	388	—	3,827	13,383	19,095	36,696	△36,696	—
計	332,440	12,682	300,256	21,372	59,151	725,902	△36,696	689,206
セグメント利益	13,865	508	814	3,887	3,439	22,515	△4,539	17,975

(注) 1. セグメント利益の調整額△4,539百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「百貨店事業」、「食品事業」、「不動産事業」及び「その他事業」の4区分から、「神戸・高槻事業」を追加した5区分に変更しております。この変更は、平成29年10月1日付の株式会社そごう・西武からの事業譲受に伴うものであり、そごう神戸店及び西武高槻店に関する事業を「神戸・高槻事業」として、新たに独立した報告セグメントに追加しております。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結会計期間において、株式会社そごう・西武のそごう神戸店及び西武高槻店に関する事業を譲り受けたことにより、前連結会計年度の末日に比べ「神戸・高槻事業」のセグメント資産が、31,086百万円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「食品事業」セグメントにおいては、イズミヤ株式会社他について、店舗の閉鎖等に伴い、当第3四半期連結累計期間に812百万円の減損損失を計上しております。なお、店舗閉鎖に係る損失404百万円について、四半期連結損益計算書においては、特別損失の店舗等閉鎖損失に含めて表示しております。